

防災について

外国人に関する防災

○外国人の存在を前提とした災害対策の標準化

施設に開設する日本語学校を通じて、多言語の情報提供や避難誘導において可能な限り外国人に配慮した支援体制を整えます。防災での学びは、そのまま語学の学びへと通じる取り組みとなります。

○外国人向けの避難訓練等の実施

地域のNPO法人と連携を図り、他国籍の地域の皆さまも参加する防災訓練を実施することで、災害時のコミュニケーションの訓練を行う場とするだけでなく、防災訓練を通じて、語学学習・異文化交流・コミュニティ形成を行います。

○日本の防災文化を知る機会の提供

地域のNPO法人と連携を図り、海外から移住されている方々に日本の災害の実情を伝える機会を提供します。日本における災害の実情や特性を知ってもらうことで、災害大国と言われる日本でも災害時に適切な対応を各々が判断できるように促します。
また、これまでの生野区で起こった災害やその対策をどのようにしてきたのかを知ってもらうことで双方の理解へと繋がります。



東京新聞2019年11月24日より

シビックテックを活用した防災について

○ITを活用した防災

「特定非営利活動法人Code for OSAKA」と連携を図り、周辺の銭湯の位置情報の共有や、親族と離れ離れになっている被災者の掲示板としてのスマートフォンの活用、被災状況や避難場所の情報共有等ITを活用した地域の皆さまによる自身の防災における取組を支援します。また、「あっぷdeいくの」等のアプリケーションを再度見直し、活用することで防災だけではなく素早い情報共有と地域活動の発信を支援します。

『あっぷdeいくの』※現在廃番のアプリケーション



「あっぷdeいくの」

○楽しみながら災害に備える

「特定非営利活動法人プラス・アーツ」は、子供も大人も楽しく学べる防災を実践している団体です。各市町村と積極的に手を組み、「イザ!カエルキャラバン!」「地震ITSUMO」「レッドベアサバイバルキャンプ」などの取り組みを行っています。防災を身近に感じながら、防災意識を高め、いざという時に役立つスキルを身につけることを目的としており、誰もが生涯を通じて楽しめます。

我々は、プラス・アーツと連携を取ることで、地域の子ども達や大人まで、楽しく防災を学ぶ機会を提供します。(現在連携協賛中)

参考例:「イザ!カエルキャラバン!」

防災をもっと身近に、もっと楽しく。家族や友達と楽しみながら防災知識が身につくイベント

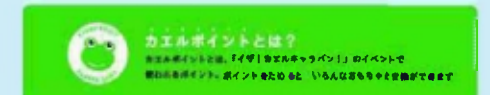


義務感で参加していた防災訓練が、出かけたくなるイベントになる

「イザ!カエルキャラバン!」は、地域の防災訓練を楽しく学べるようにアレンジした防災体験プログラムと、美術家・藤浩志が考案したおもちゃの交換会「かえっこバザール」を組み合わせた防災イベント。子どもたちが遊びながらもしっかり防災の知識や技を身につけられるプログラムです。



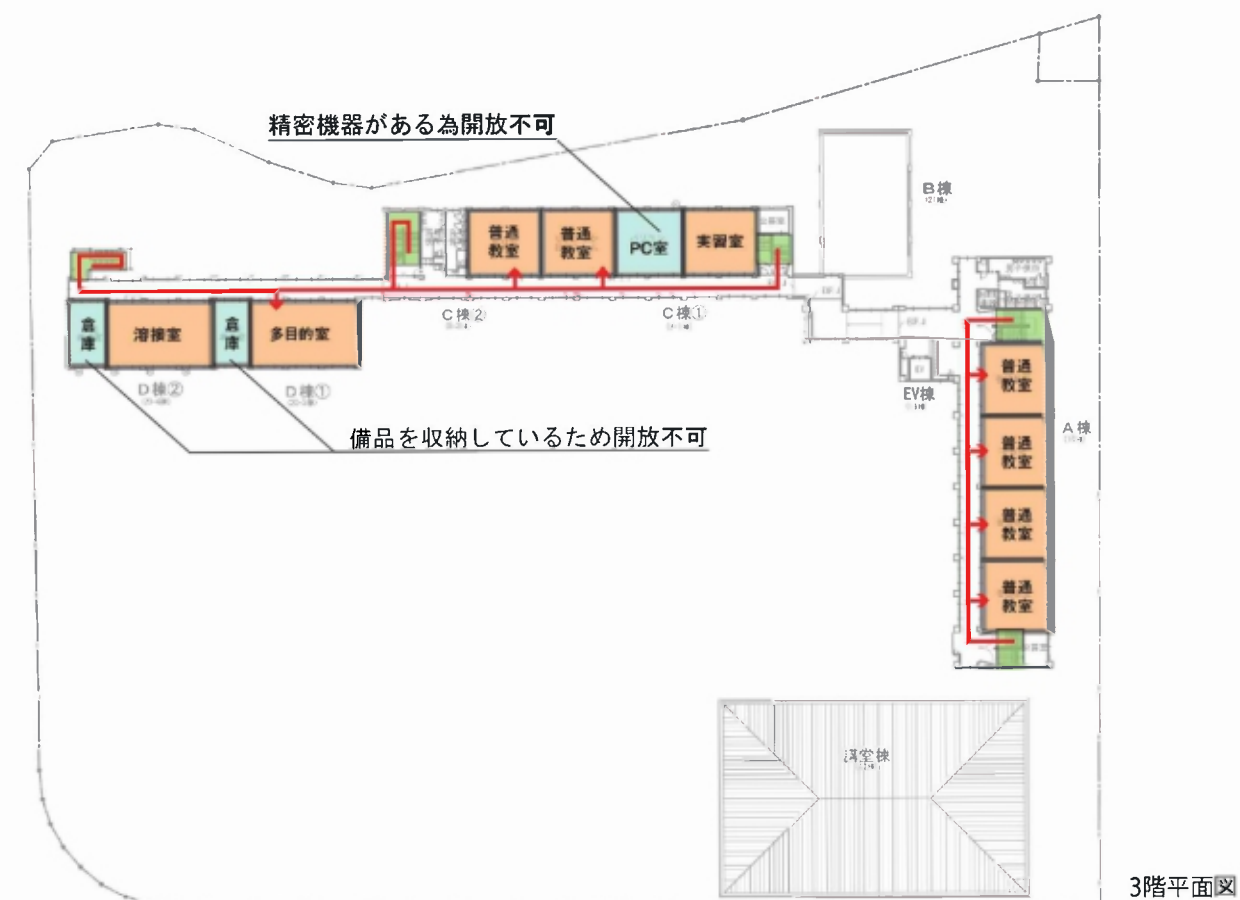
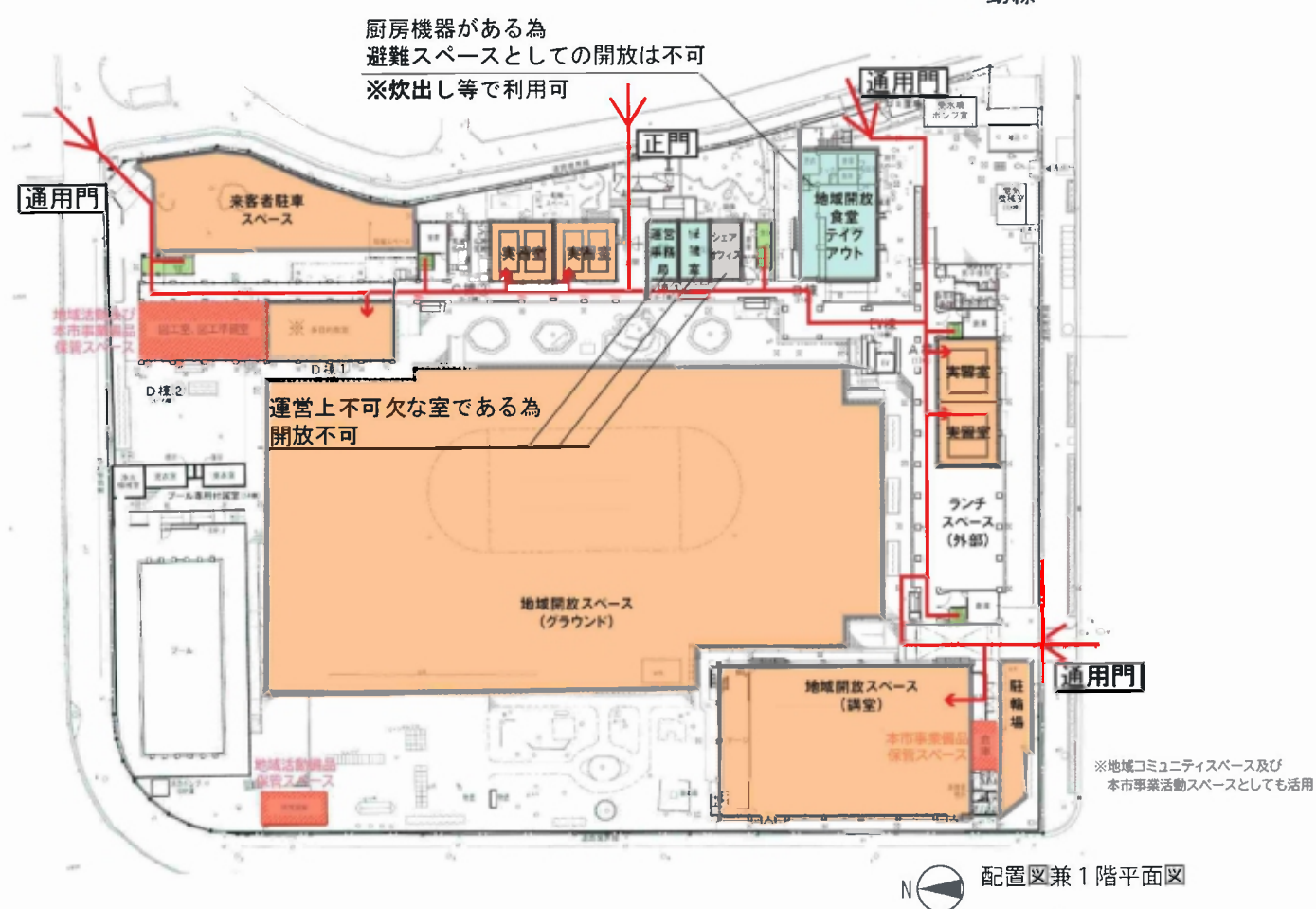
1 いらないおもちゃを持って行こう!
2 「カエルポイント」で好きなおもちゃをゲット!
3 たのしい防災体験でカエルポイントを貯めよう!
4 オープンで好きなおもちゃをゲット!



毎日新聞 2019年8月28日より青森県三沢の防災訓練の様子

発災時の校舎の避難スペース・避難する際の動線計画について
自動車整備専門学校 運営開始より0~3年目までの期間

-  避難スペース
 発災時非開放スペース
 避難階段
 動線



*備品類は迅速に撤去・移動が可能なもの想定

災害時避難所における避難所の受け入れ人数

生野区が掲載している生野南小学校の災害時の受け入れ人数520人を上回る人数を受け入れることが可能な避難計画とする。

*感染予防対策として概ね4㎡と居住スペース間を2m確保した場合は大幅に受け入れ人数が減少する。

項目	通路面積	一時避難有効面積	1室の避難人数	室数	人数小計
A棟普通教室	約20㎡	約36㎡	22人	4室	88人
A棟実習室	約28㎡	約28㎡	18人	6室	108人
B棟会議室	約20㎡	約36㎡	22人	1室	22人
C棟普通教室	約20㎡	約36㎡	22人	3室	66人
C棟実習室	約28㎡	約28㎡	18人	3室	54人
D棟実習室	約46㎡	約40㎡	25人	4室	100人
D棟多目的室	約10㎡	約94㎡	59人	1室	59人
講堂(紙管パーティション66ユニット)			144人	1室	144人

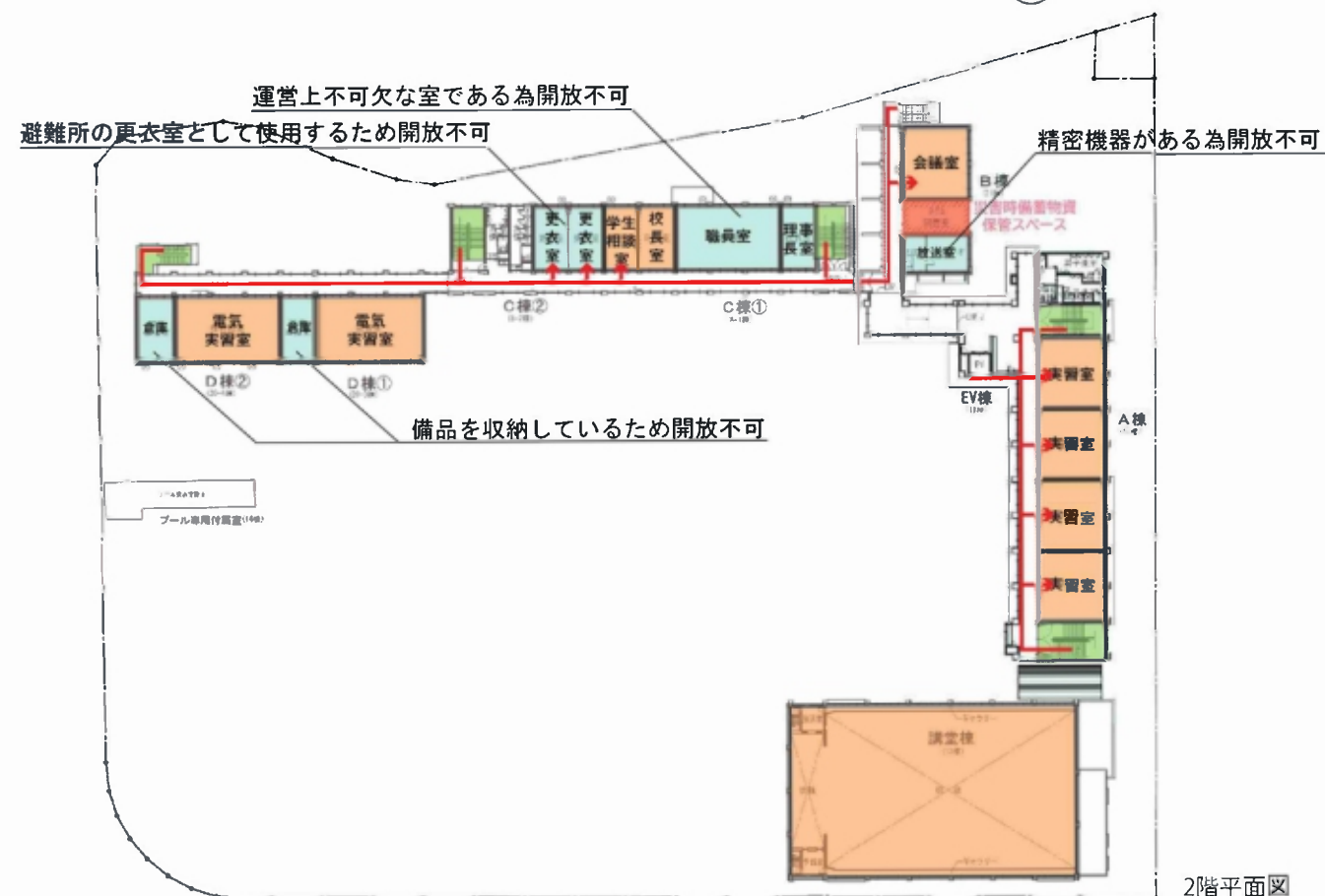
避難可能人数

合計641人

*避難所における一人当たりの必要面積1.6㎡

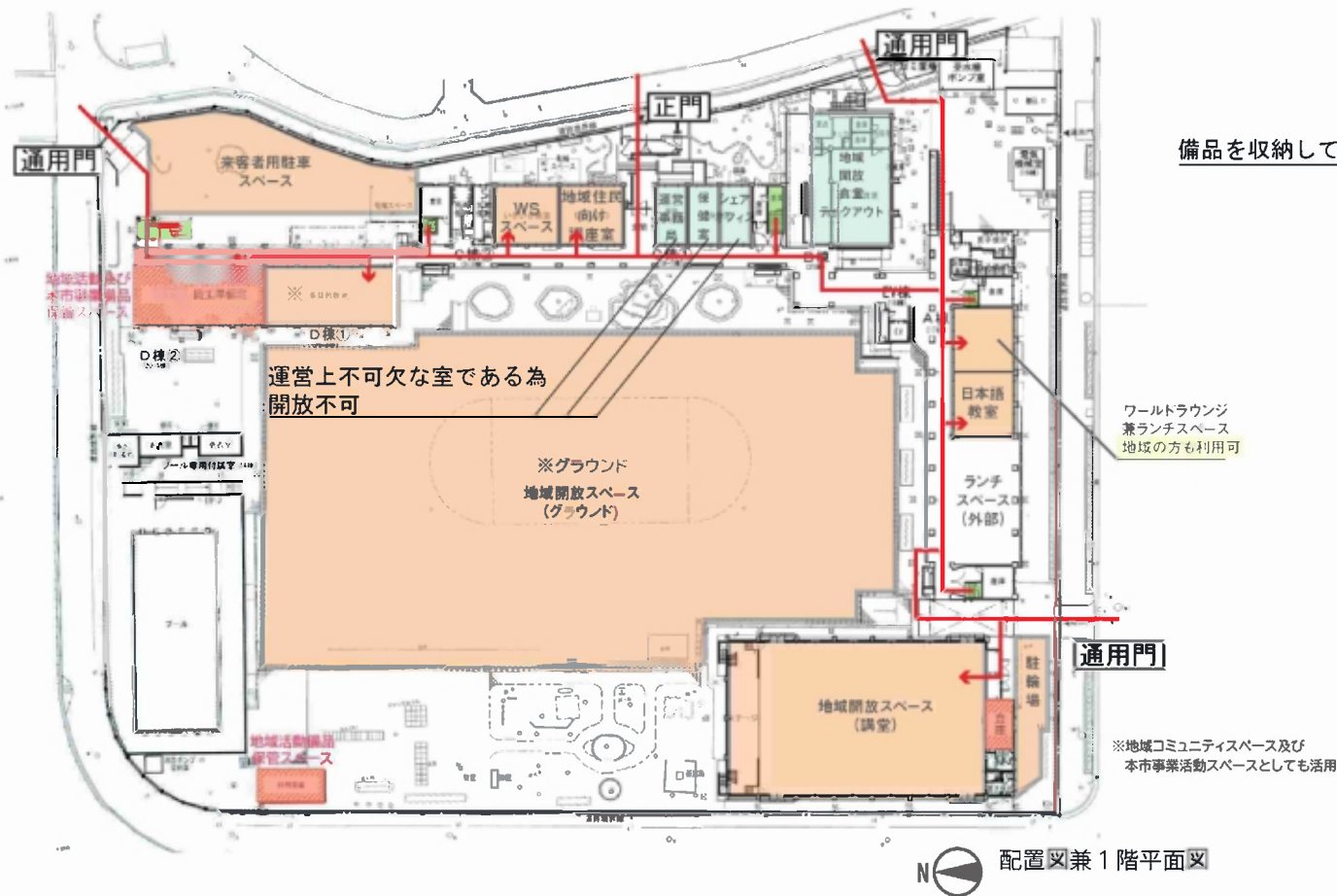
用途変更を行わずに再び学校として活用するメリット

大規模な改修や用途を変更することなく学校施設として運用することで、周辺住民の皆様がこれまで取り組んできた避難訓練や防災教育を、そのまま引き継ぐ形でスムーズに避難場所として活用してもらうことが可能です。



発災時の校舎の避難スペース・避難する際の動線計画について
通信制高等学校・日本語学校
運営開始より4~24年目までの期間

- 避難スペース
- 発災時非開放スペース
- 避難階段
- 動線



災害時避難所における避難所の受け入れ人数

生野区が掲載している生野南小学校の災害時の受け入れ人数520人を上回る人数を受け入れることが可能な避難計画とする。

*完成予防対策として概ね4㎡と居住スペース間を2m確保した場合は大幅に受け入れ人数が減少する。

項目	通路面積	一時避難有効面積	1室の避難人数	室数	人数小計
A棟普通教室	約20㎡	約36㎡	22人	10室	220人
B棟会議	約28㎡	約36㎡	22人	1室	22人
C棟教室	約20㎡	約36㎡	22人	3室	66人
C棟その他室	約20㎡	約36㎡	22人	3室	66人
D棟その他室	約22㎡	約64㎡	40人	4室	120人
D棟多目的室	約34㎡	約94㎡	59人	1室	59人
講堂(紙管パーティション66ユニット)			144人	1室	144人

避難可能人数 合計697人

*避難所における一人当たりの必要面積1.6㎡

用途変更を行わずに再び学校として活用するメリット

大規模な改修や用途を変更することなく学校施設として運用することで、周辺住民の皆様がこれまで取り組んできた避難訓練や防災教育を、そのまま引き継ぐ形でスムーズに避難場所として活用してもらうことが可能です。